

市民交流空間と市役所が一体となったまちづくり

～ 『アオーレ長岡』の実践 ～

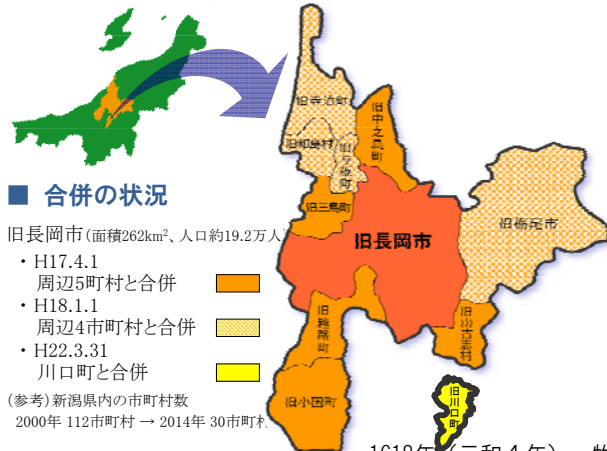
防府市新庁舎建設に関するシンポジウム



平成29年1月28日
長岡技術科学大学 副学長 教授
中出 文平



長岡市の概況



■ 合併の状況

旧長岡市(面積262km²、人口約19.2万人)

- ・ H17.4.1 周辺5町村と合併
- ・ H18.1.1 周辺4市町村と合併
- ・ H22.3.31 川口町と合併

(参考)新潟県内の市町村数
2000年 112市町村 → 2014年 30市町村

交通の要衝に位置している
新潟県中越地域の中心都市

■ 長岡市の概要(平成28年3月)

- ・ 人口 約27.8万人(県内2位)
- ・ 世帯数 約10.4万世帯
- ・ 面積 約891.1km²(≒佐渡)
- 会計規模(H28年度)
- ・ 予算総額 2,429億円
(うち一般会計 1,519億円)

■ 市章



魅力ある地方中核都市として限りなく
発展する長岡市を、不撓不屈の不死
鳥の姿に託して表現しています

1618年(元和4年) 牧野氏入府(幕末まで)
1868年(慶応4年) 北越戦争
河井継之助による戦争指導、市街戦の末落城

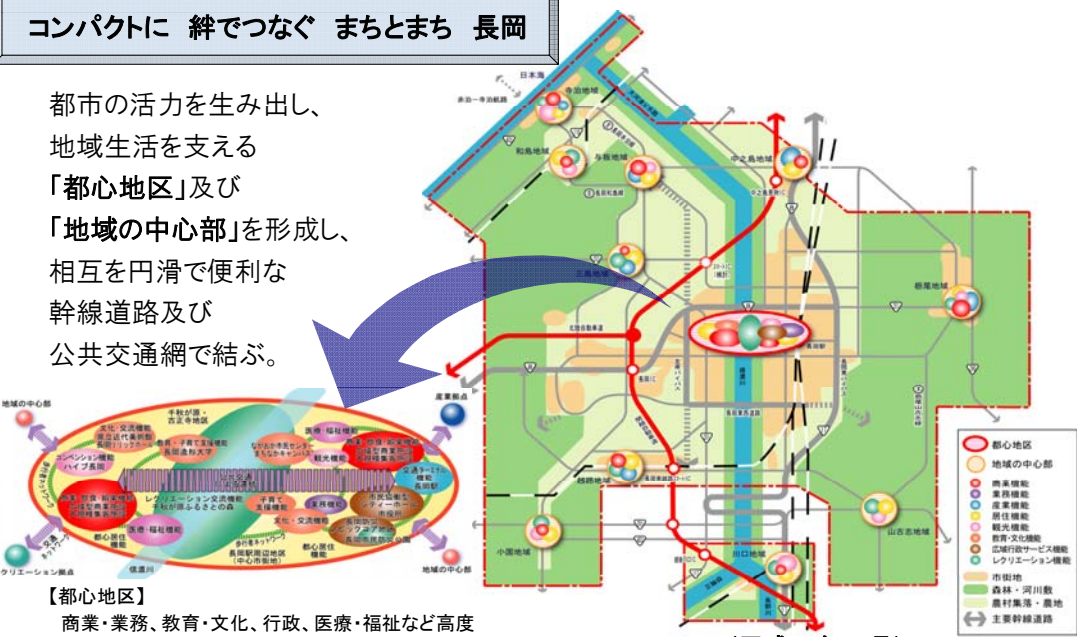
1906年(明治39年) 市制施行
1945年(昭和20年) 長岡空襲(8月1日)
新潟で唯一の空襲、死者約1,500名、市街地の85%が焼失

2004年(平成16年)
新潟県中越地震発生(M6.8)
死者68名、負傷者4,809名、避難者約10万人、住宅損壊約12万棟

長岡市都市計画マスタープランにおける将来都市像

コンパクトに 絆でつなぐ まちとまち 長岡

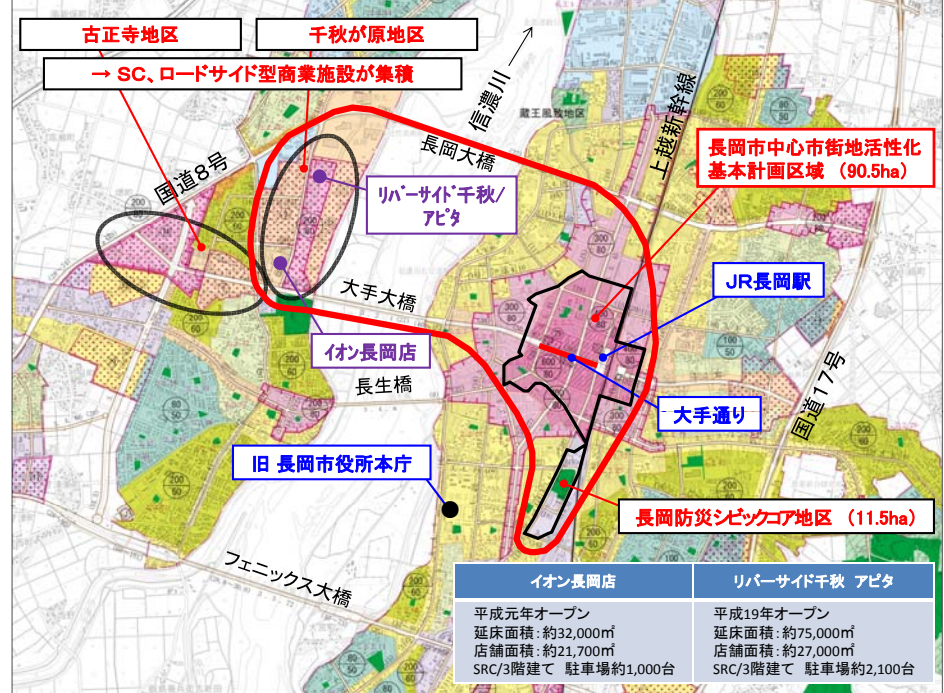
都市の活力を生み出し、
地域生活を支える
「都心地区」及び
「地域の中心部」を形成し、
相互を円滑で便利な
幹線道路及び
公共交通網で結ぶ。



【都心地区】
商業・業務、教育・文化、行政、医療・福祉など高度
な都市のサービスを提供

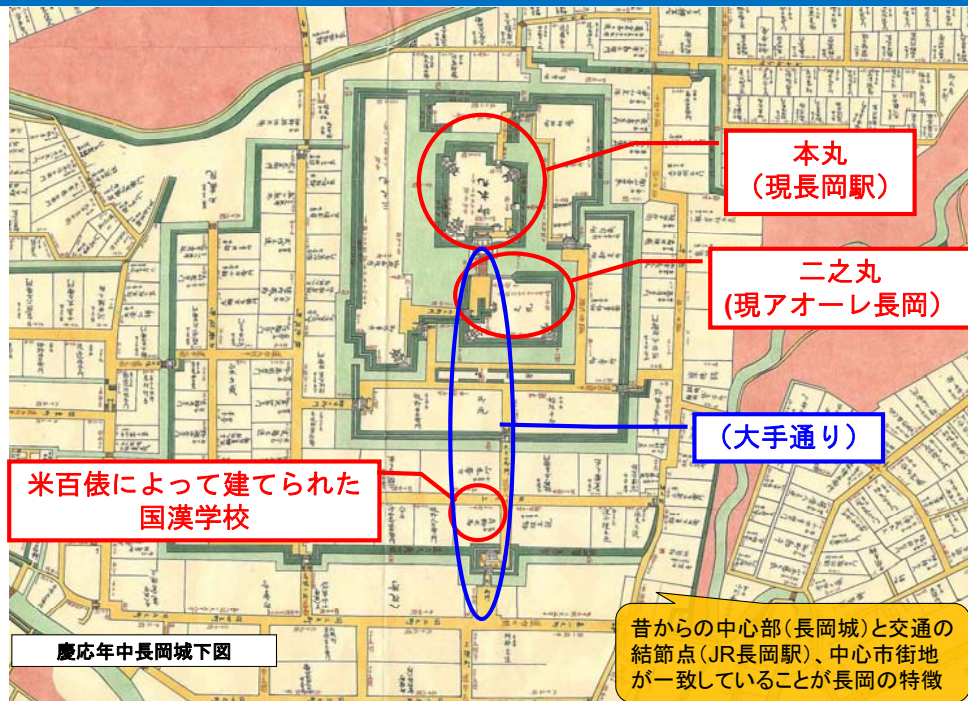
(平成22年11月)

長岡市都心地区



イオン長岡店	リバーサイド千秋 アピタ
平成元年オープン 延床面積:約32,000㎡ 店舗面積:約21,700㎡ SRC/3階建て 駐車場約1,000台	平成19年オープン 延床面積:約75,000㎡ 店舗面積:約27,000㎡ SRC/3階建て 駐車場約2,100台

市街地の成り立ち ~江戸時代(幕末)慶応年間~



現在の中心市街地の姿



まちなかの空洞化 ~商業施設の連鎖的な閉店~

長崎屋	イチムラ	丸専	原信 プリーズ店
1971 (S46)年5月開業 1995 (H7)年1月閉店 地上7F、地下1F 店舗面積:5,610㎡ 延床面積:16,316㎡	1954 (S29)年4月開業 1997 (H9)年2月閉店 地上8F、地下1F 店舗面積:6,140㎡ 延床面積:11,625㎡	1960 (S35)年12月開業 2007 (H19)年4月閉店 地上10F、地下1F 店舗面積:6,587㎡ 延床面積:10,911㎡	1976 (S51)年7月開業 2008 (H20)年9月閉店 地上3F 店舗面積:998㎡ 延床面積:1,991㎡

ダイエー	イトーヨーカドー丸大	丸大	大和
1985 (S60)年9月開業 2005 (H17)年8月閉店 地上7F、地下1F 店舗面積:13,093㎡ 延床面積:37,419㎡	1988 (S63)年11月開業 営業中	1952 (S27)年2月開業 2000 (H12)年8月閉店 地上6F、地下1F 店舗面積:5,798㎡ 延床面積:8,205㎡	1958 (S33)年10月開業 2010 (H22)年4月閉店 地上6F、地下1F 店舗面積:4,640㎡ 延床面積:7,944㎡

長岡駅

大手通り

まちなかの変遷 ~昭和の賑やかだった頃から平成の衰退へ~



活性化に向けたこれまでの取り組み



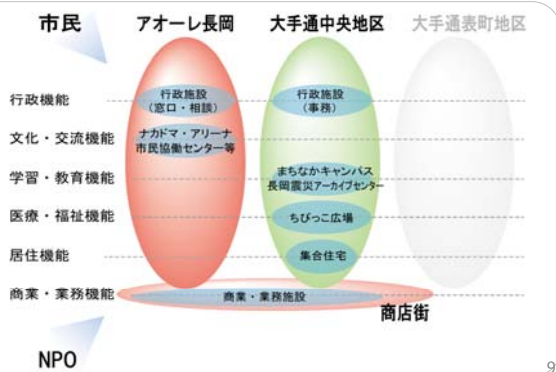
まちなか型公共サービスの幅広い展開による中心市街地の新しい姿の実現

- H13.10 「ながおか市民センター」オープン
… 撤退した大型商業店舗を市が借り、「市民協働」のまちづくりの実証実験を実施
- H16.3 『長岡市中心市街地の構造改革に関する提言』（中心市街地構造改革会議）
… 郊外化から中心市街地への再集積へ（「まちなか型公共サービス」の展開）
- H18.3 『長岡市中心市街地地区都市再生整備計画』の策定
… アオーレ長岡、大手通中央地区市街地再開発事業、大手駅前広場再整備 等
- H20.11 『長岡市中心市街地活性化基本計画（第1期計画）』の認定

現在

厚生会館地区（アオーレ長岡）、大手通中央地区市街地再開発事業の完了に伴い市役所機能の「まちなか回帰」、都市機能の更新と再集積が進んだ

多くの人が「まちなか」を訪れることで、市民の意識が変わってきており、疲弊していた中心市街地がまさに息を吹き返しつつある



長岡市の実証実験～「市民との協働によるまちづくり」を目指して～

ながおか市民センター全景



正面入口

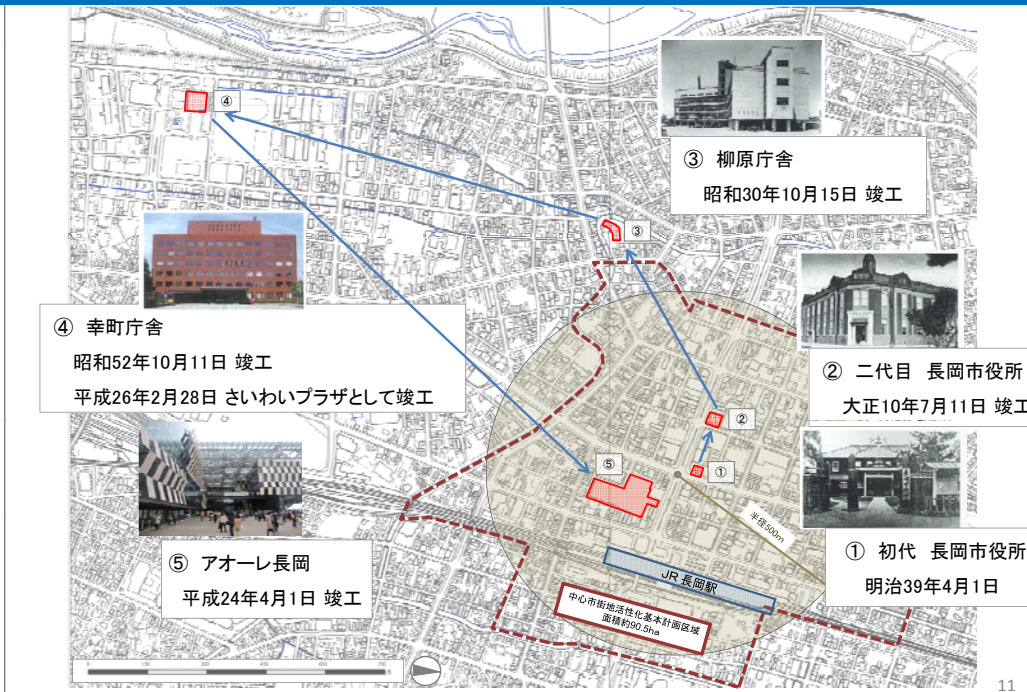
ながおか市民センターでの活動事例



ながおか市民センター[H13.10]における「市民との協働のまちづくり」の実証実験

- ・ 中心市街地の民間の空きビルを活用した市民との協働によるまちづくりの実証実験の場
- ・ 極力役所らしさを抑え、自由で規制が少なく、入りやすい普段着の施設
- ・ 「市民が育てていく」をコンセプトに、当初は、市役所窓口サービス、ちびっこ広場や市民が様々な活動を行うフリースペース等を整備
- ・ 市民の声を反映し「学習コーナー」や「障害者プラザ」を開設
- ・ 自然発生的に中・高校生の学習コーナーができた。ちびっこ広場が子育て中のお母さん方の交流の場になったりと、日々進化を続けている
- ・ 多くの市民に愛され、オープン以来延べ307万人以上が利用(H22.6現在)
- ・ 全国の先進事例として、これまで自治体、商店街組合等から、延べ577団体、13,418人(H22.3.31現在)もの視察

長岡市役所の位置の変遷



市役所を中心市街地へ移転する際の検討経緯

【移転の必要性】

- ・ 11市町村の合併で業務が拡大、本庁舎が手狭に。その結果、大手通分室など7か所に庁舎が分散
- ・ 中越大震災（H16）で、災害時の防災拠点となる本庁舎の耐震性不足が判明
- ・ 交通弱者対策、中心市街地の賑わいづくりという課題

【市民、議会での議論】

- ・ 行政機能再配置検討市民委員会での検討
- ・ 地域での市政懇談会の開催、「市政だより」による情報提供
- ・ 市議会での継続的な議論（定例会、特別委員会、議員協議会、各党派説明）

公共交通の利便性、コスト面、まちづくりの観点から中心市街地に移転することが最適との結論に。

引き続き、「新しい市役所調査検討委員会（議会）」、「新しい市役所検討市民委員会」、市民ワークショップで、新市役所の在り方を議論。

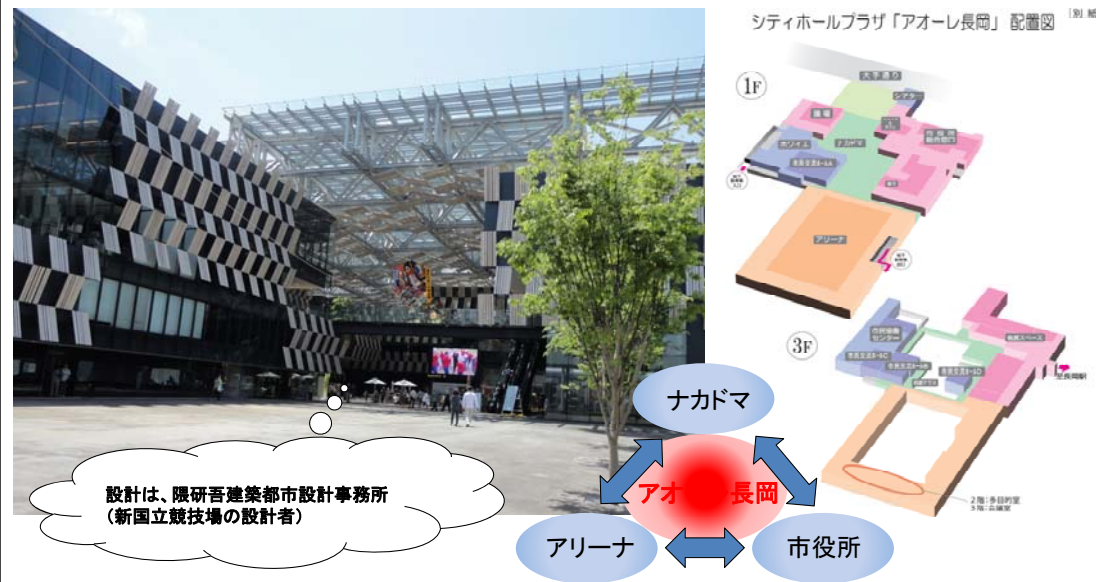
全国初まちなか型市役所の実現

市役所機能をあえて分散配置することで、まちなかの賑わいや回遊性を創出



「アオーレ長岡」のオープン ～平成24年4月1日～

「アオーレ長岡」は、JR長岡駅前に位置し、ナカドマ(屋根付き広場)を中心に、アリーナ、市民交流ホールなどの公会堂機能と市役所、議会が一体となった多くの人が集まる「市民協働・交流の拠点」です。



「アオーレ長岡」という名前は・・・

公募総数5,552点から選考
アオーレ=「会いましょう」
人々が出会い、活動する拠点



「アオーレ長岡」のコンセプトと特徴

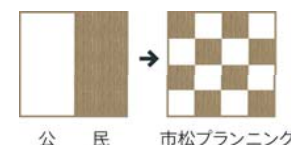
〇 まちに開けた“ナカドマ”

庭のようでも部屋のものであるナカドマ(屋根付き広場)は、建物中央に挟み込まれるように配置しています。誰もが気軽に立ち寄り、活動できる空間です。



〇 公と民のモザイク

行政と市民の活動が、モザイクや市松模様のように交ざり合った計画です。



市民の皆さんが活動するすぐそばで市役所の業務が行われ、議会が開催されます。市松模様は壁面や大屋根のパターンとしても表現されています。

■ 施設の中心は“ナカドマ” ～ 外でも内でもない中間的な領域の空間

2,250㎡の屋根付き空間

アリーナの大開口を開ければ
5,000㎡以上の大空間が出現！

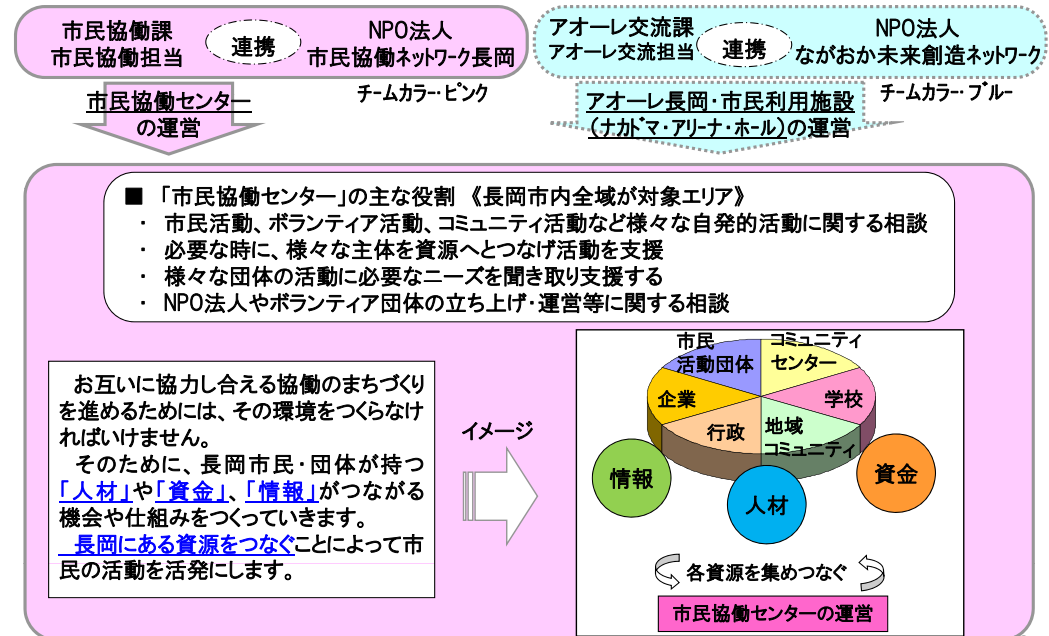
- ・ナカドマの空間が主役、建物は脇役(通常の建物とは逆の発想)
→ 正面玄関がなく、人々は、ナカドマを通して建物に出入りしている
- ・ナカドマからガラス張りの建物で活動している人が見え、逆に見られる環境
→ お互いの気配が感じられる心地よい空間

「アオーレ長岡」の活用方法とその効果

- 年間450を超える市民イベント
多様な施設とその利用を支える仕組みをパッケージで創設
 - 中心市街地施設の市民利用の無料化
 - 支援組織の創設（市民協働推進室、NPO）
- 年間100万人を超える市民の利用
 - 中心市街地が人の集まる地域として市民に再認知

17

「アオーレ長岡」は市民協働の拠点



18

「アオーレ長岡」でのイベント展開(ナガドマ)



19

「アオーレ長岡」でのイベントの展開(ナガドマ)



20

「アオーレ長岡」でのイベント展開(アリーナ)



アリーナは最大
5,000人収容



「アオーレ長岡」の市役所らしい場所

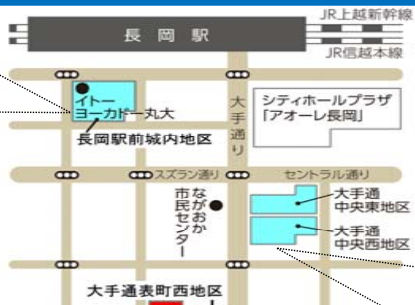
【東棟1階の市役所総合窓口】

- 目的型の窓口(身近な手続きを集約)
- ・ワンストップサービスの提供
- ・市役所コンシェルジュによるサポート
- ・平日:午前8時30分~午後8時
- ・土日祝:午前9時~午後5時



長岡市の市街地再開発事業

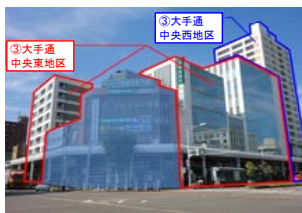
①長岡駅前城内地区(実施後)



大手通中央東・西地区(実施前)



大手通中央東・西地区(実施後)



④大手通表町西地区(実施後)

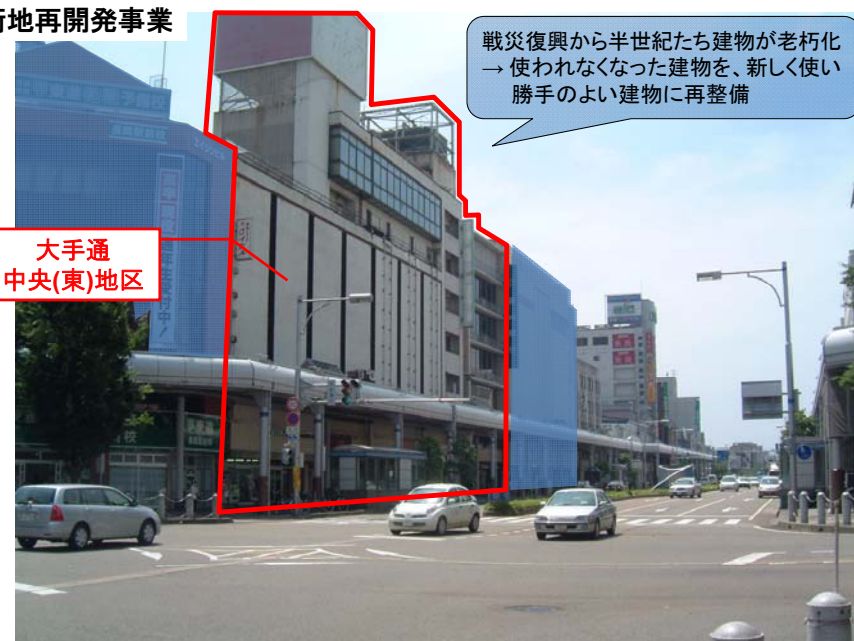


地区名	地区面積 (ha)	延床面積 (㎡)	施行	総事業費 (百万円)	主要施設
①長岡駅前城内 S61~H1	0.5	22,000	組合	3,864	店舗、飲食、住宅
②大手通中央西 H17~H23	0.3	11,500	個人	3,820	集合住宅、店舗、子育て支援施設
③大手通中央東 H18~H24	0.5	18,300	組合	7,620	銀行、店舗、集合住宅、市役所機能、まちなかキャンパス、アーカイブセンター
④大手通表町西 H24~	0.5	17,600	組合	6,320	老人ホーム、集合住宅、学習塾、歯科クリニック、社会福祉センター

大手通中央東地区市街地再開発事業

大手通中央東地区 第一種市街地再開発事業

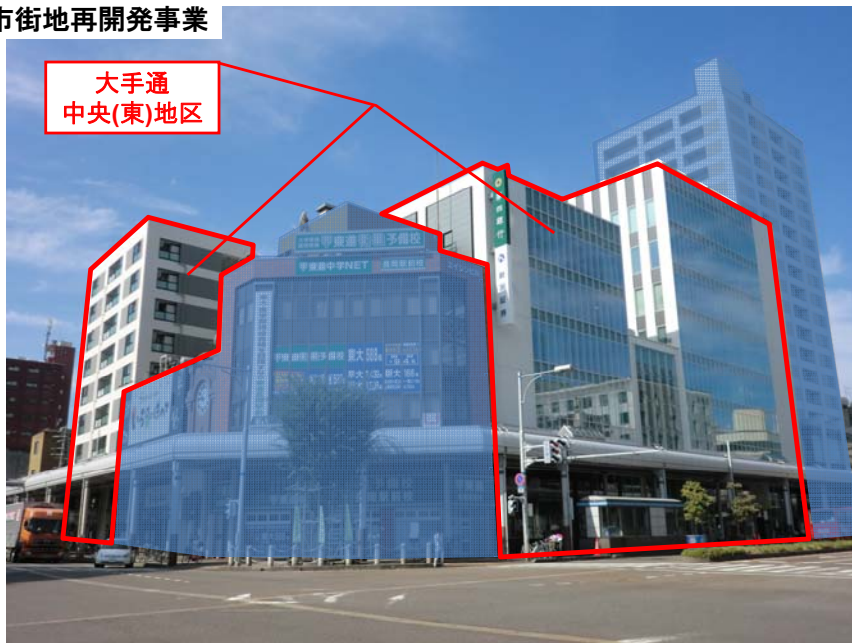
【実施前の状況】



大手通中央東地区市街地再開発事業

大手通中央東地区 第一種市街地再開発事業

【実施後の状況】



大手通中央東地区市街地再開発事業

大手通中央東地区施設概要

事業概要

断面図



項目	概要
施行者	大手通中央東地区市街地再開発組合
施行地区面積	約0.5ha (約4,800㎡)
建築敷地面積	約3,200㎡
建築面積	約2,500㎡
延べ面積	約18,200㎡
(うち容積対象面積)	(約15,600㎡)
建ぺい率	約80%
容積率	約490%
構造・階数	A棟：鉄筋コンクリート造 地上9階 B棟：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上6階、地下1階 C棟：鉄骨鉄筋コンクリート造 地上8階、地下2階 イーストスクエア：鉄骨鉄筋コンクリート造
主要用途	A棟 (住宅棟) 店舗、住宅 (14戸) B棟 (業務棟) 銀行 C棟 (商業・公共公益棟) 店舗、公共公益施設 駐車場44台 (BC棟地下) 広場

支出		収入	
調査設計計画費	4.0億円	補助金	32.4億円
土地整備費	14.7億円	保留床処分金	43.6億円
工事費	53.3億円	その他	0.2億円
事務費	4.2億円		
合計	76.2億円	合計	76.2億円

まちなかキャンパス長岡について

- 長岡市は、**3大学1高専**の高等教育機関を有しているが、各校が全て郊外立地であるため、学校間の連携や学校と市民との交流が進まない等の課題を有していた。
- まちなかキャンパスは、こうした課題に対応するため、中心市街地に整備し、市民の生涯学習の拠点、大学の情報発信基地として**3大学1高専**が共同で運営している。



▲ 3大学1高専とまちなかキャンパス長岡の位置関係図

まちなかキャンパス長岡の特色

特色1 各校の専門性を活かした多彩なカテゴリー！

- ・ 専門性のレベルに応じ、「まちなかカフェ」、「まちなか大学」、「まちなか大学院」などの多彩なカテゴリーで各講座を開催。

特色2 学生も主体となって協議会を運営！

- ・ 講座の企画・運営は、市内**3大学1高専**が協働でプロデュース。
- ・ 『まちなかキャンパス長岡運営協議会』には、学生も委員として参画。



交流広場



まちなか大学



市民プロデュース講座

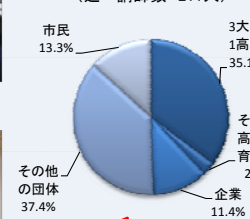


まちなかカフェ

<平成27年度実績>

講座数84講座(全184回)
講座受講者数 約 3.5千人
施設利用者数 約12.6万人

講師割合【平成27年度実績】
(延べ講師数 211人)



> 市民・NPO等が講師の割合が約半数を占める

講座受講者の年齢別割合
(平成27年度アンケート結果)

年齢	人数	構成比 (%)
10代以下	176	13
10代	28	2
20代	63	5
30代	120	9
40代	201	15
50代	280	20
60代	320	23
70代～	176	12
未記入	6	1
計	1,370	100

震災アーカイブセンター「きおくみらい」

- ・震災アーカイブセンター「きおくみらい」は、長岡市の中心市街地に立地し、中越大震災全体のガイダンス機能を持つ総合的な施設。
- ・被災状況や災害・防災に関する文献、映像データを保有し閲覧も可能。
- ・また、防災関連会議等の主要開催場所として、そのセンター機能を有する。

「長岡震災アーカイブセンター きおくみらい」の活動



iPadで被災状況と地域文化を学ぶ



ホールでの防災学習

- 開館
平成23年10月22日
- 来館者数
18,052名(平成27年度)
- 施設内容
震災マップ(約100m²)
図書スペース
シアター(定員17人)
多目的ホール(定員80人)

中越大震災 被害状況

発震：2004年(平成16年)10月23日
地震の規模：マグニチュード6.8
最大震度7

区分	新潟県全体	長岡市
死者	68人	28人
負傷者	4,795人	2,438人

区分	新潟県全体	長岡市
住宅被害	全壊	2,197棟
	大規模半壊	1,457棟
	半壊	7,052棟
	一部損壊	58,839棟
建物火災	9件	7件

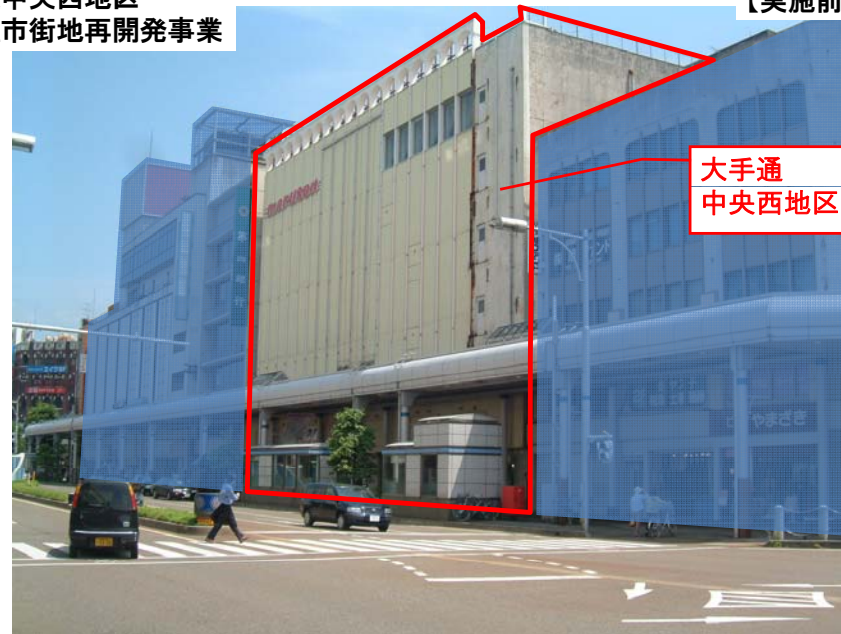


被災状況写真

大手通中央西地区市街地再開発事業

大手通中央西地区 第一種市街地再開発事業

【実施前の状況】



大手通
中央西地区

大手通中央西地区市街地再開発事業

大手通中央西地区 第一種市街地再開発事業

【実施後の状況】



大手通
中央西地区

大手通中央西地区市街地再開発事業

大手通中央西地区施設概要

断面図



事業概要

項目	概要
施行者：大手通中央西地区第一種市街地再開発事業 個人施行者協同組合丸専	
施行地区面積	約0.3ha(約2,550m ²)
建築物の概要	建築敷地面積 約1,800m ² 建築面積 約1,390m ² 延べ面積 約11,480m ² (うち容積対象面積) 約8,730m ² 容積率 約80% 容積率 約490% 構造・階数 鉄筋コンクリート造 地上18階、地下1階
主要用途	住宅(駐車場含む) 約8,900m ² 、63戸 高層棟62戸(内分譲60戸) 低層棟1戸 店舗等 約680m ² 子育て支援施設 約1,900m ² 駐車場 52台(マンション居住者用)

支出		収入	
調査設計計画費	2.2億円	補助金	21.9億円
土地整備費	3.5億円	保留床処分金	15.7億円
工事費	31.2億円	権利者増床負担	0.2億円
事務費	1.3億円	その他	0.4億円
合計	38.2億円	合計	38.2億円

子育ての駅 ちびっこ広場

■ 買い物時の休憩、子育て相談・交流の場

- ・H13.10月、「ながおか市民センター」内にオープン
- ・H22.8月、再開発ビル内へ移転・拡充

■ 保育士と司書が常駐し連携

- ・保育士による乳幼児の一時預かりを実施(有料:1時間=300円)
- ・司書も常駐し、「まちなか絵本館」としての機能を拡充

■ ハード・ソフトを市民が育てた施設

- ・お父さん・お母さん(現場)の声は「子育ての駅」の源流



子育ての悩みや意見を
書き込める自由ノート

平成26年度実績

年間入館者数	1日平均
41,140人	114人

「子育ての駅 ちびっこ広場」の活動事例



▲ちびっこ広場



▲絵本読み聞かせ
(まちなか絵本館)



▲ファミリー・サポート・
センター事務局



▲赤ちゃん講座

大手通表町西地区市街地再開発事業

大手通表町西地区 第一種市街地再開発事業

【実施前の状況】



【位置図】



大手通表町西地区市街地再開発事業

【実施後の状況】

大手通表町西地区 第一種市街地再開発事業

ビル名称「ながおか町口御門」

- ・整備地はかつて長岡城の町口御門があった場所。
- ・長岡藩は身分のへだたりを除いて商工業の発展に取り組む藩風。
- ・町口御門は、武士と町人を繋ぐ門であり、市が目指す「市民協働によるまちづくり」に通じるもの。



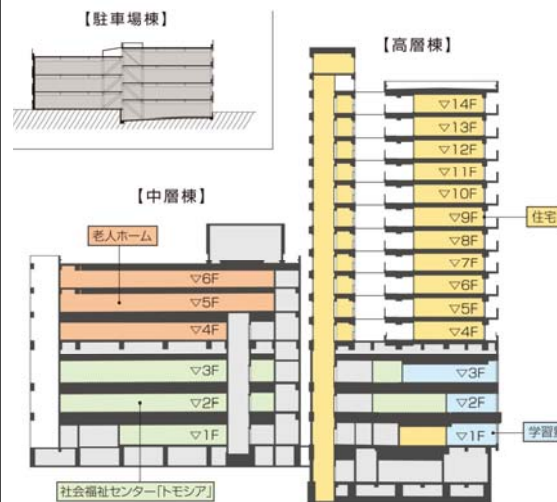
大手通表町西地区市街地再開発事業

大手通表町西地区施設概要

事業概要

項目	概要		
施行者	大手通表町西地区市街地再開発組合		
施行地区面積	約0.5ha(約5,460㎡)		
建築物の概要	建築敷地面積	約3,455㎡	
	建築面積	約2,650㎡	
	延べ面積(うち容積対象面積)	約17,415㎡	
	建ぺい率	約12.130%	
	容積率	約77%	
構造・階数	(複合施設棟)	鉄筋コンクリート造 地上14階・地下1階	
	(駐車場棟)	鉄骨造 地上4階	
主要用途	共同住宅(駐輪場含む)	66戸(うち分譲60戸) 約6,900㎡	
	社会福祉センター	約2,700㎡	
	有料老人ホーム	約1,700㎡	
	業務施設(学習塾、歯科クリニック、店舗)	約1,060㎡	
	施設共用等	約1,555㎡	
駐車場	145台	約3,500㎡	
支 出			
調査設計計画費	4.7億円	補 助 金	
土地整備費	3.3億円		
補償費	9.1億円		
工事費	43.8億円		
事務費	2.8億円		
合計	63.7億円		
収 入			
通常補助金(国・市)	29.6億円	補 助 金	
都市・地域再生緊急促進事業補助金	1.6億円		
スマートウェルネス住宅等推進事業補助金	0.4億円		
参加組合員負担金	13.2億円		
保留床処分金等	18.8億円	補 助 金	
その他	0.1億円		
合計	63.7億円	合計	63.7億円

断面図



大手通表町西地区 長岡市社会福祉センター 愛称「トモシア」

公共交通の結節点で、都市基盤が集積した中心市街地の強みを生かし、市民の誰もが気軽に集い、活動できる、オール長岡の福祉の中枢機能を整備。

市民団体が自由に利用できる充実した活動スペース

会議室・研修室【3階】

- ◆福祉関係団体を中心とした市民団体の自発的、積極的な活動拠点となる多目的スペース
- ◆利用者の用途や規模に合わせた会議室・研修室



多様なニーズに対応できる相談体制

相談・支援センター【2階】

- ◆地域包括支援センター（基幹型・地域型）
- ◆障害者基幹相談支援センター



ふれあいを大切に、障害者の就労を応援する場

市民のボランティアをサポートし、活動のプラットフォームに

ボランティアセンター【1階】

- ◆オール長岡の中心となる活動拠点
- ◆専門職員による総合相談体制、情報提供
- ◆市民やボランティア団体の情報交換、交流、活動の場
- ◆人材の育成や市民の意識醸成を図る教育・研修の場



福祉カフェ【1階】

- ◆アオーレ長岡で好評の障害者が働くカフェをボランティアセンター内にも開設



全ての人たちが「ともにしあわせ」になる場所、長岡市の福祉のシンボルである「ともしび」、希望の光を「ともし」という意味が込められています。

大手通表町東地区市街地再開発事業（検討中）

◇これまでの経緯

- 平成7年10月 大手通表町地区まちづくり協議会 設立
- 平成10年8月 大手通表町市街地再開発準備組合 設立
- 平成22年4月 大和長岡店 閉店
- 平成22年9月 表町街区全体に「地区計画」の都市計画決定
- 平成24年10月 大手通表町東地区市街地再開発準備組合が発足
- 平成26年11月 長岡市・UR都市機構が旧大和長岡店を取得

※ 表町東地区の歴史的背景

表町東地区は、江戸時代に家老屋敷が並び、明治維新後には「米百俵の精神」の発祥である国漢学校が立地した。その後、市役所が立地していた場所であり、いつの時代の市民にも「市の中心」として記憶に刻まれている大切な区域である。

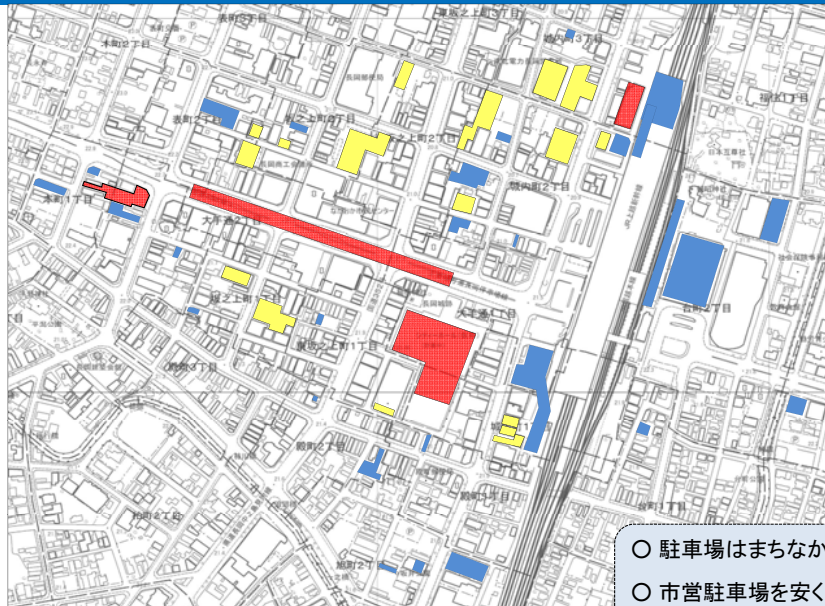
■ 再開発事業に向けた市の基本姿勢

- ① 民間活力を積極的に導入した市街地再開発事業の実現
- ② 民間ニーズを捉え、長岡市全体へ効果が波及する再開発を目指す
- ③ 市も権利者の一人として再開発事業に参画

（まちづくり・新エネルギー対策特別委員会（平成26年10月27日）で説明）



中心市街地の駐車場 ～既存駐車場の有効活用～



色	種別	箇所	台数	月極
赤	市営駐車場	4	525台	119台含む
黄	提携駐車場	17	1,070台	158台含む
青	その他	30	1,300台	30台含む
計		51	2,895台	219台含む

- 駐車場はまちなか全体で確保
- 市営駐車場を安く → 30分150円を100円に

JR長岡駅大手口駅前広場整備事業

～JR長岡駅大手口駅前広場地区～

- 中心市街地へのアクセス性の向上
- 駅で分断されていた大手通地区と駅東地区の一体化
- 天候にかかわらず、安心して快適に移動できる歩行者空間の確保
- 新しい長岡の顔となる駅前の再整備



大手口地下自転車駐車場（920台収容）



東西自由通路延伸(H22.3.31供用)

屋根付きペDESTリアンデッキ『大手スカイデッキ』



○延長:約300m 幅員:4m
JR長岡駅~大手通り、大手口バスターミナル、アオーレ長岡
→東京から2時間で、靴のままアオーレ長岡アリーナのイベントへ

商業から市民活動の街へ再生

シティホールプラザ「アオーレ長岡」
(H27年度年間利用者数:132.6万人)



平成27年度の来街者約184万人
・すべての長岡市民(28万人)が2カ月に1回以上訪れるエリアになった

まちなかキャンパス長岡
(H27年度年間利用者数:12.6万人)

「アオーレ長岡」4年間の実績 ①

●施設の利用者数

計543万人

区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
1 市役所総合窓口利用者数	22.4万人	22.0万人	22.7万人	23.9万人
2 市民協働センター利用者数	21.5万人	20.7万人	24.2万人	19.6万人
3 視察見学者数	1.5万人	6.8千人	5.6千人	6.1千人
4 イベント来場者・ホール等利用者数	106.6万人	78.9万人	89.3万人	88.4万人
合計	152万人	122万人	136.8万人	132.5万人

「アオーレ長岡」4年間の実績 ②

●施設の稼働率

年間450を超える市民イベントを展開

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
ナカドマ	92.16%	88.16%	90.49%	92.66%
アリーナ	73.92%	67.35%	69.60%	67.48%
ホールその他	91.89%	89.30%	87.47%	88.35%
全体平均	85.99%	81.60%	82.52%	82.83%

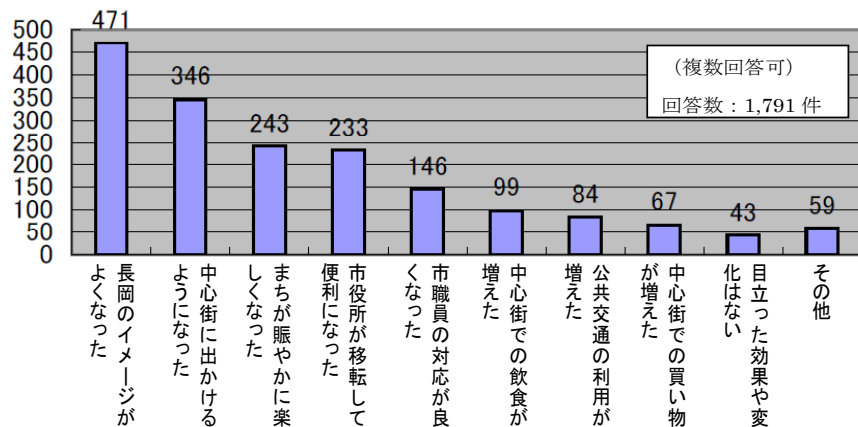
市民による高い評価

アオーレの誕生で効果があったと思う人が9割以上(市民意識アンケートから)

○効果あり・・・約95%

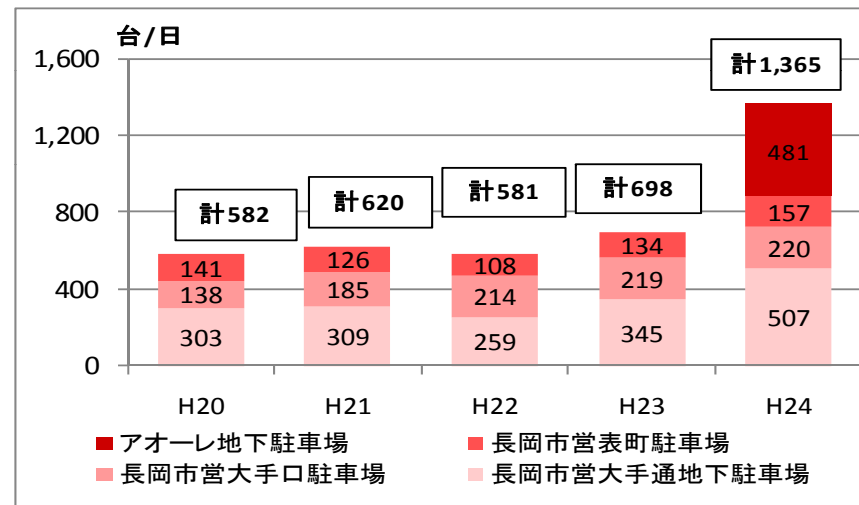
○効果なし・・・約5%

<内 訳>



45

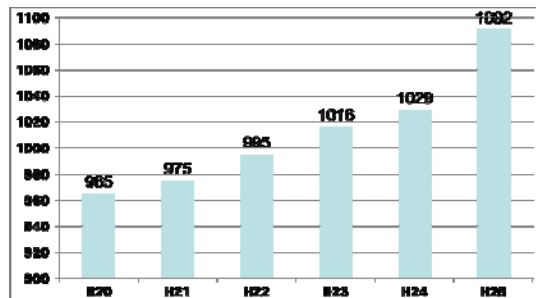
アオーレ効果① 既存駐車場の利用が増加



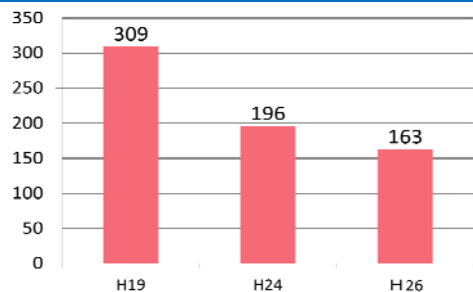
※アオーレ駐車場を最小限に整備

46

アオーレ効果② 中心市街地の店舗数が増加



アオーレ効果③ 空き店舗数が36.5%減少



47

中心市街地のさらなる活性化に向けて

◆今後の課題

- ・ **行政主導から民間活力を活かしたまちづくりへ**
 ⇒民間の活力・サービスの幅広い展開を支援
 ⇒中心市街地への民間プロジェクト参入を促進するため長岡市、(株)北越銀行、UR都市機構の3者で「長岡まちなか民間活力創造研究会」を設置
 ⇒老朽化した建物の更新を民間主導で推進(長岡市まちなか建物更新等支援事業、リノベ研究会)
- ・ **来街者の回遊性の向上**
 ⇒アオーレ効果の商店街への波及(来街者が求めるサービス、モノ、場所を提供)
 ⇒「ながおか町口御門」の完成による回遊性の向上

48

■ アオーレ長岡完成により、「まちの顔」、「市民の誇りの場」が創出

…「まちなか型公共サービス」の第一ステージ完了

さらに、まちなかを使ってもらうため、10年20年先を見据えたまちづくりが必要

■ 平成25年度に『長岡まちなか創造会議』を設置 《まちなかの評価と課題》

○「まちなか型公共サービス」の展開は、中心市街地の新たなモデル

・従来の中心商業地が提供する物やサービスから質的に転換
→ 医療、福祉系などの機能導入、強化を検討することが必要

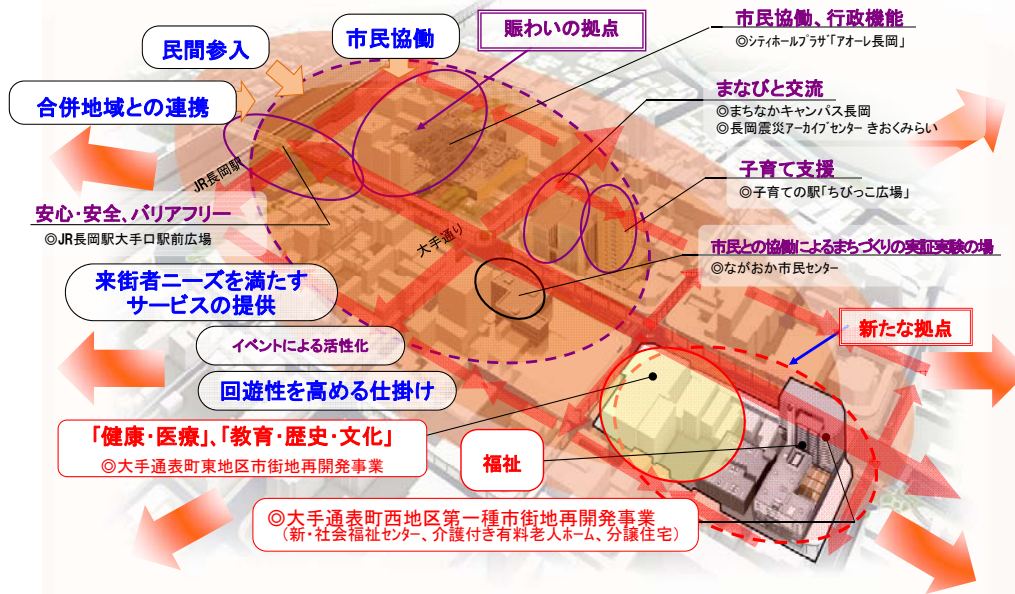
人が来ている間に、
次の手を形に！

○「市民の居場所」の登場 ～アオーレ長岡は新しい市役所像を示した～

・アオーレ長岡が市民活動、市民協働の拠点として定着
→ ささまざまな地域により一層広げていくことが必要

○継続的なまちなか活性化の取り組みが必要

→ 来街者の回遊は公共施設周辺範囲にとどまっているため、公共サービスに加え民間の活力、サービスを展開することが必要



中心市街地の施設・機能導入の考え方

将来

大手通表町地区において、新たな「まちなか型公共サービス」を導入し、アオーレ長岡周辺と相互に連携する「新たな核づくり」に取り組む。さらに、まちなかでの商業機能の拡充や回遊の仕掛けづくり、居場所づくりを展開し、大手通りを中心に賑わいを波及させていく。

これらの取り組みは、より一層の市民参画や民間活力の導入、合併地域との連携のもとに促進させていく必要がある。

